

HA8000 シリーズ

BladeSymphony

Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド
Log Monitor 機能
(旧名称 : ハードウェア保守エージェント)

FASTFIND LINKS

[ドキュメント構成](#)

[お問い合わせ先](#)

[目次](#)

ソフトウェア使用上の注意

お客様各位

株式会社 日立製作所

このたびは日立アドバンスサーバをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

下記の「ソフトウェアの使用条件」を必ずお読みいただきご了解いただきますようお願いいたします。ソフトウェアの使用条件

1. ソフトウェアの使用

このソフトウェアは、特定の1台の日立アドバンスサーバシステムでのみ使用することができます。

2. 複製

お客様は、このソフトウェアの一部または全部の複製を行わないでください。ただし、下記に該当する場合に限り複製することができます。

お客様がご自身のバックアップ用、保守用として、1項に定める1台の日立アドバンスサーバシステムで使用する場合に限り複製することができます。

3. 改造・変更

お客様によるこのソフトウェアの改造・変更は行わないでください。万一、お客様によりこのソフトウェアの改造・変更が行われた場合、弊社は該当ソフトウェアについてのいかなる責任も負いません。

4. 第三者の使用

このソフトウェアを譲渡、貸出、移転その他の方法で、第三者に使用させないでください。

5. 保証の範囲

(1) 万一、媒体不良のために、ご購入時に正常に機能しない場合には、無償で交換いたします。

(2) このソフトウェアの使用により、万一お客様に損害が生じたとしても、弊社は責任を負いません。あらかじめご了承ください。

以上



目次

目次.....	iii
お使いになる前に.....	v
重要なお知らせ.....	vi
規制・対策などについて.....	vi
登録商標・商標.....	vi
著作権について.....	vi
文書来歴.....	vii
ドキュメント構成.....	vii
凡例.....	viii
お問い合わせ先.....	ix
安全にお使いいただくために.....	xiii
Log Monitor の概要.....	1-1
概要.....	1-2
機能.....	1-2
適用機器.....	1-3
サポート OS/仮想環境.....	1-4
要求リソース.....	1-6
前提ソフトウェア.....	1-7
検知対象障害.....	1-10
制限事項.....	1-11
Log Monitor の導入.....	2-1
インストール前の準備.....	2-2
BladeSymphony へのインストール.....	2-3
HA8000 へのインストール.....	2-11
アンインストール.....	2-16

バージョンの確認	2-17
Log Monitor の操作	3-1
障害解析結果コード(RC)の参照 (HA8000 のみ)	3-2
動作検証 (HA8000 のみ)	3-4
リモート保守サービスの構築(HA8000 のみ).....	4-1
リモート保守サービスの概要.....	4-2
リモート保守サービスの注意事項.....	4-4
リモート保守サービスの導入手順.....	4-5
設定情報の変更.....	4-14
リモート保守サービスの解除.....	4-16
付録.....	5-1
メッセージ一覧.....	5-2
インストールフォルダ構成.....	5-6
IT Report Utility 連携ー収集情報ー一覧.....	5-7
リモート保守オプション設定ツールのエラーー一覧.....	5-9
頭字語と略語	6-1

お使いになる前に

このマニュアルは、弊社サーバ製品を使用する前に、知っておいていただきたい内容について説明しています。製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み十分理解してください。このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

この章の内容は以下の通りとなっています：

- [重要なお知らせ](#)
- [規制・対策などについて](#)
- [登録商標・商標](#)
- [著作権について](#)
- [文書来歴](#)
- [ドキュメント構成](#)
- [凡例](#)
- [お問い合わせ先](#)
- [安全にお使いいただくために](#)



弊社サーバ製品の使用は、弊社とのお客様の契約の条件によって決定されます。

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万が一不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いません。あらかじめご了承ください。

規制・対策などについて

輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。

海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、本製品は適合していません。

登録商標・商標

- Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、Red Hat Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- VMware、VMware vSphere は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。
- その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権に保護されています。
このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で記載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2012,2014. All rights reserved.

文書来歴

改訂	年月日	説明
SNV-2-LM_1	2012年11月	初版
SNV-2-LM_2	2012年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ BladeSymphony の場合の問い合わせ先を記載。 ・ 「リモート保守オプション設定ツールのエラー一覧」の対処を一部修正。 ・ 適用機器 誤記訂正。
SNV-2-LM_3	2012年12月	適用機器に BS2000 を追加
SNV-2-LM_4	2012年12月	適用機器に BS320/x6 を追加
SNV-2-LM_5	2013年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「規制・対策などについて」を記載 ・ 登録商標・商標 誤記訂正
SNV-2-LM_6	2013年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適用機器に HA8000/RS110xM, TS10xM, NS110xM, NS10xM を追加 ・ サポート OS に「Red Hat Enterprise Linux Server 6.4」を追加
SNV-2-LM_7	2013年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適用機器に HA8000/RS220-hxM2, RS210-hxM2 を追加 ・ サポート OS に「Red Hat Enterprise Linux Server 5.9」を追加 ・ Virtage（日立サーバ仮想化機構）に関する記載を追加
SNV-2-LM_8	2014年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適用機器に HA8000/RS220xM2, RS210xM2, TS20xM2, RS110-hxM2, TS10-hxM2, NS220xM2, を追加 ・ サポート OS に「Windows Server® 2012 R2」を追加 ・ 検知対象障害に「BMC 障害」と「OS が起動しない障害」について追加 ・ Log Monitor の動作検証方法を追加
SNV-2-LM_9	2014年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録商標・商標 誤記訂正 ・ 制限事項に Windows イベントログの保持ポリシーに関する記載を追加
SNV-2-LM_10	2014年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ サポート OS に「Red Hat Enterprise Linux Server 6.5」を追加 ・ 適用機器に HA8000/RS440xM, RS110xM1, TS10xM1, NS110xM1, NS10xM1 を追加

ドキュメント構成

このドキュメントの内容と構成の概要を下記表に示します。各章のタイトルをクリックすることで、各章を参照することができます





章	説明
Chapter 1, Log Monitor の概要	この章では Log Monitor の概要について説明します。
Chapter 2, Log Monitor のインストール	この章では、Log Monitor のインストール方法およびアンインストール方法について説明します。
Chapter 3, Log Monitor の操作	この章では、Log Monitor の操作について説明します。
Chapter 4, リモート保守サービスの構築(HA8000のみ)	この章では、HA8000 のリモート保守サービスの構築について説明します。
Chapter 5, 付録	この章では、Log Monitor に関する補足情報を記載します。

凡例

弊社サーバ製品の用語は特に明記がない場合、弊社サーバ製品すべてのモデルで使用されています。このドキュメントで使用されている記号は以下の通りです。

記号	説明
太字	メニュー、オプション、ボタン、フィールドおよびラベルを含めて、ウィンドウ・タイトル以外に表示される内容を示します。 例: Click OK .
イタリック体	ユーザまたはシステムによって提供される変数を示します。 例: copy <i>source-file target-file</i> 通知: "<>" も変数を示すために使用されます。
画面/コマンドライン	画面に表示またはユーザによって入力する内容を示します。 例: # pairdisplay -g oradb
< >	ユーザまたはシステムによって提供される変数を示します。 例: # pairdisplay -g <group> 通知: イタリック体のフォントも変数を示すために使用されます。
[]	オプションの値を示します。 例: [a b] a、b または入力なしのどれかを選択することを示します。
{ }	必要な値あるいは予期された値を示します。 例: { a b } a または b のどちらかを選択することを示します。
	2 つ以上のオプションあるいは引数から選択できることを示します。 例: [a b] a、b または入力なしのどれかを選択することを示します。 { a b } a または b のどちらかを選択することを示します。
アンダーライン	デフォルト値を示します。例: [<u>a</u> b]

このドキュメントは、注意すべき情報に対して次のアイコンを使用しています:

アイコン	意味	記述
 警告	警告	死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	注意	軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	通知	人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	制限	本製品の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	補足	本製品を活用するためのアドバイスを示します。

お問い合わせ先

HA8000 にて使用時のお問い合わせ先

技術情報、アップデートプログラムについて

HA8000 ホームページで、技術情報、ドライバやユーティリティ、BIOS/EFI、ファームウェアなどのアップデートプログラムを提供しております。本ユーティリティでアップデートに対応していない場合やトラブルシューティングが必要となります。[ダウンロード]をクリックしてください。

- HA8000 ホームページアドレス : <http://www.hitachi.co.jp/ha8000>

各アップデートプログラムの適用はお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にご使用いただくためにも、定期的にホームページにアクセスして、本ユーティリティを使用して最新のドライバやユーティリティ、BIOS/EFI、ファームウェアへ更新していただくことをお勧めいたします。

障害等の保守作業で部品を交換した場合、交換した部品の BIOS/EFI、ファームウェアは原則として最新のものが適用されます。また保守作業時、交換していない部品の BIOS/EFI、ファームウェアも最新のものへ更新する場合があります。

なお、お客様による BIOS/EFI、ファームウェアアップデート作業が困難な場合は、有償でアップデート作業を代行するサービスを提供いたします。詳細はお買い求め先にお問い合わせください。

操作や使いこなしについて

本製品のハードウェアについての機能や操作方法に関するお問い合わせは、HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）でご回答いたしますので、次のフリーダイヤルにおかけください。受付担当がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話でお答えするコールバック方式をとらせていただきます。

HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）

 0120-2580-91

受付時間

9:00~12:00/13:00~17:00（土・日・祝日、年末年始を除く）

お願い

- お問い合わせになる際に次の内容をメモし、お伝えください。お問い合わせ内容の確認をスムーズに行うため、ご協力をお願いいたします。

形名（TYPE）／製造番号（S/N）／インストール OS／サービス ID（SID）

「形名」、「製造番号」および「サービス ID」は、システム装置前面に貼り付けられている機器ラベルにてご確認ください。

- 質問内容を FAX でお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。
- HITAC カスタマ・アンサ・センタでお答えできるのは、製品のハードウェアの機能や操作方法などです。ハードウェアに関する技術支援や、OS や各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。


ハードウェアや OS の技術的なお問い合わせについては有償サポートサービスにて承ります。詳細は、「[技術支援サービスについて](#)」(P.x)をご参照ください。

- 明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。

欠品・初期不良・故障について

本製品の納入時の欠品や初期不良および修理に関するお問い合わせは日立コールセンタにご連絡ください。

日立コールセンタ

 0120-921-789

受付時間

9:00~18:00 (土・日・祝日、年末年始を除く)

お願い

- お電話の際には、製品同梱の保証書をご用意ください。
- Web によるお問い合わせは次へお願いします。
https://e-biz.hitachi.co.jp/cgi-shell/qa/rep_form.pl?TXT_MACTYPE=1

技術支援サービスについて

ハードウェアやソフトウェアの技術的なお問い合わせについては、技術支援サービスによる有償サポートとなります。

日立統合サポートサービス「日立サポート 360」

ハードウェアと、Windows や Linux などの OS を一体化したサポートサービスをご提供いたします。

詳細は次の URL で紹介しています。

- ホームページアドレス : <http://www.hitachi.co.jp/soft/symphony/>

インストールや運用時のお問い合わせや問題解決など、システムの円滑な運用のためにサービスのご契約をお勧めします。

HA8000 問題切分支援・情報提供サービス

ハードウェアとソフトウェアの問題切り分け支援により、システム管理者の負担を軽減します。

詳細は次の URL で紹介しています。

- ホームページアドレス : <http://www.hitachi.co.jp/soft/HA8000/>

運用時の問題解決をスムーズに行うためにサービスのご契約をお勧めします。

なお、本サービスには OS の技術支援サービスは含まれません。OS の技術支援サービスを必要とされる場合は「日立サポート 360」のご契約をお勧めします。

BladeSymphony にて使用時のお問い合わせ先

最新情報・Q&A・ダウンロードは

「BladeSymphony ホームページ」で、重要なお知らせ、Q&A やダウンロードなどの最新情報を提供しております。各アップデートプログラムの適用はお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にご使用いただくためにも、定期的にホームページにアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新していただくことをお勧めいたします。

- ホームページアドレス : <http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/>

- ・ 重要なお知らせ

BladeSymphony の使用における重要なお知らせを掲載しています。

- ・ Q & A (よくあるご質問)

BladeSymphony に関するよくあるご質問とその回答を掲載しています。

[製品] タブをクリックし、画面右の [Q&A よくあるご質問] をクリックしてください。

- ・ ドライバ・ユーティリティ ダウンロード

修正モジュール/ ドライバ/ ファームウェア/ ユーティリティなどの最新情報を提供しています。 [サポート&ダウンロード] タブをクリックし、「ドライバ・ユーティリティ ダウンロード」の [詳細はこちら] をクリックしてください。

- ・ マニュアル

製品添付マニュアル(ユーザーズガイド)の最新情報を提供しています。

[サポート&ダウンロード] タブをクリックし、「マニュアル」の [詳細はこちら] をクリックしてください。

困ったときは

1. マニュアルを参照してください。製品同梱の他の紙マニュアルもご利用ください。
2. 電話でお問い合わせください。
 - ・ 販売会社からご購入いただいた場合
販売会社で修理を承ることがございます。お買い求め先へ修理の窓口をご確認ください。
 - ・ 上記以外の場合
日立ソリューションサポートセンターまでお問い合わせください。

日立ソリューションサポートセンター

- ・ BladeSymphony サポートセンター
フリーダイヤル：サポートサービス契約の締結後、別途ご連絡いたします。
詳細は担当営業までお問い合わせください。
- 受付時間 : 8:00~19:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するために、このシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。



警告 これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



注意 これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



通知 これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。



【表記例 1】感電注意

「△」の図記号は注意していただきたいことを示し、「△」の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

「⊘」の図記号は行ってはいけないことを示し、「⊘」の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

なお、「⊘」の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

「○」の図記号は行っていただきたいことを示し、「○」の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、「Ⓛ」は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- 本ソフトウェアをインストールするシステム装置のマニュアルを参照し、記載されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の破損を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。
本製品について何か問題がある場合は、お買い求め先にご連絡ください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

製品の損害を防ぐための注意

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



本製品のインストールについて

本製品は、本製品の動作をサポートしているシステム装置でご使用ください。それ以外のシステム装置にインストールすると、システム装置の仕様の違いにより故障の原因となります。サポート有無については、システム装置のマニュアルなどをご確認ください

本マニュアル内の警告表示

警告

本マニュアル内にはありません。

注意

本マニュアル内にはありません。

通知

本マニュアル内にはありません。

Log Monitor の概要

この章では Hitachi Server Navigator Log Monitor（以後、Log Monitor と表記）
（旧名称：ハードウェア保守エージェント）の概要について説明します。

- [概要](#)
- [機能](#)
- [適用機器](#)
- [サポート OS/仮想環境](#)
- [要求リソース](#)
- [制限事項](#)

概要

Log Monitor は、OS 上のログ情報からハードウェアの障害・保守情報を収集・解析し、障害イベントコード（IPMI-SEL フォーマット準拠）を生成します。
生成された障害イベントコードはマネジメントモジュール（BladeSymphony では SVP、HA8000 では BMC を示します）に記録され、保守対応時に現象の把握と障害部位特定に利用されます。

Log Monitor を導入することで、迅速な障害復旧が可能となり、システム装置の稼働率向上を実現します。

さらに保守会社の障害通報サービス（障害発生時に障害情報を保守会社に自動送信）と連携することで、障害発生時の初動対応における人的な時間のロスを抑えることができます。

機能

Log Monitor の機能について説明します。

ハードウェアの障害・保守情報を収集・解析

OS ログ（Windows: イベントログ、Linux: syslog メッセージ）を監視し、障害イベントを検知すると障害イベントコードを生成します。

また HA8000 では OS ログに加え、システム装置本体のイベント(SEL)を監視します。
（BladeSymphony では、SVP がシステム装置本体のイベント(SEL)を監視しています）

障害イベントコードをマネジメントモジュールへ記録

障害発生時に生成した障害イベントコードをマネジメントモジュールへ記録します。

これによりお客様の OS を立ち上げることなく、障害発生当時のイベントを確認することができます。

ただし HA8000/xL2 以前のモデルの場合は、障害イベントコードをマネジメントモジュールへ記録することはできません。

障害解析結果コード(RC)の生成（HA8000 のみ）

HA8000 では、障害イベントコードとシステム装置本体のイベント(SEL)を元に障害解析結果コード(RC)を生成します。障害解析結果コードは保守対応時に現象の把握と障害部位特定に利用されます。（BladeSymphony ではマネジメントモジュールで障害解析結果コードの生成を行います）

マネジメントモジュールへのログ転送（BladeSymphony BS500 のみ）

BladeSymphony の BS500 では、マネジメントモジュールからのログ転送要求を受け、OS 内のログ情報をマネジメントモジュールに転送することができます。

通報サービスとの連携

保守会社の通報サービスと連携し、障害情報（障害解析結果コードなど）を自動送信することができます。

BladeSymphony の場合 : マネジメントモジュールから通報されます。
HA8000 の場合 : リモート保守サービス（※）と連携します。

（※）リモート保守サービスについては「[リモート保守サービスの構築](#)」P.4-1 を参照してください。

IT Report Utility との連携（HA8000 のみ）

HA8000 では、IT Report Utility を実行すると Log Monitor の保守情報収集機能によりハードウェア障害情報を収集します。

収集するログ情報については、「[IT Report Utility 連携－収集情報一覧](#)」P.5-7 を参照してください。

適用機器

Log Monitor がサポートする機器は次の通りです。
なお Log Monitor のバージョンにより適用可能なシリーズ／モデルが異なります。

シリーズ	モデル	Log Monitor バージョン	
BladeSymphony	BS500 BS2000	09-xx	
	BS320/x6	07-6x	
HA8000	xM/xM1/ xM2 モデル	RS440xM, RS220xM/xM1/xM2, RS220-hxM/hxM1/hxM2, RS220-sxM/sxM1/sxM2, RS210xM/xM1/xM2, RS210-hxM/hxM1/hxM2, RS110xM/M1, RS110-hxM/hxM1/hxM2, TS20xM/xM1/xM2, TS10-hxM/hxM1/hxM2, TS10xM/M1 NS220xM/xM1/xM2, NS110xM/M1, NS10xM/M1	x6-xx
	xL/xL1/xL2 モデル	RS440xL/xL1/xL2, RS220xL, RS210xL, RS110xL/xL1/xL2 TS20xL, TS10xL/xL1/xL2, SS10xL/xL1/xL2 NS220xL, NS110xL/xL1/xL2, NS10xL/xL1/xL2, NS10sxL/sxL1/sxL2	x5-xx
	xK/xK1 モデル	RS440xK/xK1, RS220xK/xK1, RS210xK/xK1, RS110xK/xK1, TS20xK/xK1, TS10xK/xK1, SS10xK/xK1	
	xJ モデル	RS440xJ, RS220xJ, RS210xJ, RS110xJ, TS20xJ, TS10xJ	
	xH モデル	RS440xH, RS220xH, RS210xH, RS110xH, TS20xH, TS10xH	
	xG モデル	RS440xG, RS220xG, RS210xG, RS110xG, TS20xG, TS10xG	

サポート OS/仮想環境

サポート OS

Log Monitor がサポートする OS は、以下の通りです。
ただし動作するシステム機器がサポートする OS を前提とします。

【Windows】（32 bit 版と 64 bit 版の両方をサポートしています）

Windows Server® 2012 R2
Windows Server® 2012
Windows Server® 2008 R2
Windows Server® 2008
Windows Server® 2003 R2 日本語版
Windows Server® 2003 日本語版
Windows® Storage Server 2012
Windows® Storage Server 2008 R2
Windows® Storage Server 2008
Windows® Storage Server 2003 R2

【Linux】（32 bit 版と 64 bit 版の両方をサポートしています）

Red Hat Enterprise Linux Server 6.5
Red Hat Enterprise Linux Server 6.4
Red Hat Enterprise Linux Server 6.2
Red Hat Enterprise Linux Server 6.1
Red Hat Enterprise Linux 5.9
Red Hat Enterprise Linux 5.7
Red Hat Enterprise Linux 5.6
Red Hat Enterprise Linux 5.4
Red Hat Enterprise Linux 5.3
Red Hat Enterprise Linux 5.1
Red Hat Enterprise Linux 4.7
Red Hat Enterprise Linux 4.5

サポート仮想環境

以下の仮想環境をサポートします。
ただし動作するシステム機器がサポートする仮想環境を前提とします。

仮想環境	インストール場所(*1)	サポート (○：対象、△：一部対象、－：対象外)				
		Blade Symphony	HA8000 (*5)			
			xL2 以前	xM	xM1	xM2 以降
VMware vSphere® 5	ゲスト OS	－ (*2)	○	△ (*2)(*3)	△ (*2)(*4)	－ (*2)
VMware vSphere® 4	ゲスト OS	－	○	△ (*3)	△ (*4)	－
Windows の Hyper-V 環境	ホスト OS	○	○	○	○	○
Virtage (日立サーバ仮想化機構)	ゲスト OS	○	－	－	－	－

*1：サポートするゲスト OS/ホスト OS は「[サポート OS](#)」と同じです。

*2：別ツールの VMware vMA(vSphere Management Assistant)版 Log Monitor でサポートします。

*3：次のモデルは対象外です。RS440xM

*4：次のモデルは対象外です。RS110xM1,TS10xM1

*5：次のモデルは対象外です。NS220,NS220-s,NS110,NS10,NS10s



【HA8000 VMware のゲスト OS (障害監視用ゲスト OS) に関する注意点】

- Log Monitor と [前提ソフトウェア](#)(P.1-7)は障害監視用ゲスト OS にインストールしてください。
- システム装置の管理 LAN ポートと障害監視用ゲスト OS とを物理的なネットワークで接続してください。
ゲスト OS からシステム装置本体のイベント(SEL)を管理するために必要です。
詳細は SelManager の取扱説明書を参照してください。
- 1つの障害監視用ゲスト OS で1台のシステム装置を監視します。
複数のシステム装置で VMware 環境を構築している場合、障害監視用ゲスト OS がシステム装置の台数分必要となります。



BladeSymphony または HA8000 xM モデル以降で、VMware vSphere® 5 の場合は、VMware vMA(vSphere Management Assistant)版 Log Monitor をご使用ください。VMware vMA 版 Log Monitor は、VMware のゲスト OS に Log Monitor をインストールする方式に比べ、VMware Hypervisor のメッセージを監視することで、より多くの障害を検知することができます。

要求リソース

Log Monitor は常駐型アプリケーションです。以下に、無負荷時、障害検知時における要求リソースの目安を表記します。

項目	無負荷時	障害検知時
CPU 負荷率	1%以下	10~30%
メモリ使用量	約 7MB	約 15MB
ディスク使用量 (*1)	約 7MB	約 200MB

*1 : Log Monitor のインストールフォルダについては、「付録. [インストールフォルダ構成](#)」P.5-6 を参照してください。

Log Monitor は以下のサービスが常駐します。

OS 種別	サービス名称	常駐プロセス
Windows	SMAL2_MainteAgtSvc	C:\Program Files\HITACHI\miacat\Program\SMAL2Svc.exe C:\Program Files\HITACHI\miacat\Program\SMAL2MASvc.exe (HA8000 の x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります) HA8000 の xL2 モデル以前では C:\Program Files\H_Densa\SMAL2\Program\SMAL2Svc.exe C:\Program Files\H_Densa\SMAL2\Program\SMAL2MASvc.exe (HA8000 の x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)
Linux	smal2d	/opt/hitachi/miacat/Program/SMAL2MASvc HA8000 の xL2 モデル以前では /opt/H_Densa/SMAL2/Program/SMAL2MASvc

Log Monitor は以下のポートを使用します。

ポート番号	サービス名称(*1)	説明
23141/tcp	core-linux	通報用機器 (BladeSymphony の場合は SVP) との通信用ポート
23141/udp	—	通報用機器との疎通確認用ポート (HA8000 のみ)
31100/tcp	smal2_mainteregagt_port	Log Monitor の内部通信用ポート
31101/tcp	smal2_mainteagt_port	Log Monitor の内部通信用ポート

他のプロセスにて既にポート番号が使用されている場合は、services ファイル(*2)を編集することで使用するポート番号を変更することができます。

*1 : LogMonitor インストール時、services ファイル(*2)にサービス名称は追加されません。

*2 : Windows : C:\WINDOWS\system32\drivers\etc\services、Linux: /etc/services



ファイアウォール機能でポート制限をしている場合は、Log Monitor で使用するポートを開放する必要があります。

HA8000 で(株)日立システムズ(保守会社)が提供する ASSIST 通報機能 (ハードウェア障害を保守会社へ通知する機能)を導入される場合は、「23141」ポートを変更することはできません。

前提ソフトウェア

Log Monitor の動作に必要なソフトウェアは次の通りです。

- [システム装置イベント\(SEL\)管理ツール](#) (P.1-7)
- [内蔵 RAID 管理ツール](#) (P.1-8)
- [エントリクラスディスクアレイ\(BR1200\)用管理ツール](#) (P.1-8)
- [UPS 用管理ツール](#) (P.1-8)
- [syslog サービス \(Linux のみ\)](#) (P.1-9)
- [32bit 実行環境ライブラリ \(HA8000 で Linux の x86_64 環境のみ\)](#) (P.1-9)

システム装置イベント(SEL)管理ツール

システム装置本体のイベント管理、または障害イベントコードをマネジメントモジュールに記録するために、次のソフトウェアのいずれかがインストールされている必要があります。なおソフトウェアはシステム装置に添付されている「Hitachi Server Navigator」（または「SystemInstaller」）メディアに格納されています。

ソフトウェア	BladeSymphony			HA8000			
	Windows		Linux	Windows	Linux	VMware	
	BS500 BS2000	BS320				Windows	Linux
SelManager	—	必要 (どちらか 1つ)	—	必要 (どちらか 1つ)	必要 (どちらか 1つ)	必要	必要
JP1/ServerConductor/Agent	必要 (どちらか 1つ)	必要 (どちらか 1つ)	必要 (どちらか 1つ)	必要 (どちらか 1つ)	必要 (どちらか 1つ)	—	—
OS 標準 IPMI サービス [Windows] OS 標準 IPMI ドライバ [RHEL 5.x] OpenIPMI パッケージ(RPM) OpenIPMI-tool パッケージ(RPM) [RHEL 6.x] OpenIPMI パッケージ(RPM) ipmitool パッケージ(RPM)	必要 (どちらか 1つ)		必要 (どちらか 1つ)	—	Sel- Manager の場合に 必要	—	—



VMware 環境の場合は、SelManager をゲスト OS にインストールしてください。またシステム装置の管理 LAN ポートとゲスト OS との物理的なネットワーク構築と通信設定を行う必要があります。（SelManager がシステム装置本体のイベント(SEL)を管理するため）

詳細は SelManager の取扱説明書を参照してください。

内蔵 RAID 管理ツール

システム装置の内蔵 RAID の障害を検知する場合は、次のソフトウェアのいずれかがインストールされている必要があります。（ただし VMware 環境では不要です）

なおソフトウェアはシステム装置に添付されている「Hitachi Server Navigator」（または「SystemInstaller」）メディアに格納されています。

- Hitachi RAID Navigator
- MegaRAID Storage Manager
- HRA Utility (日立製 RAID ボード用)

エントリクラスディスクアレイ(BR1200,BR20)用管理ツール

エントリクラスディスクアレイ装置（BR1200, BR20）の障害を検知する場合は、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

なおソフトウェアはエントリクラスディスクアレイ装置に添付されているメディアに格納されています。

- BR1200 Syslog ツール
- BR20 SYSLOG デーモン



ディスクアレイ装置から Log Monitor がインストールされたシステムにイベントを送信するため、ディスクアレイ装置側の設定変更が必要です。
設定方法については、管理ツールのマニュアルを参照してください。

UPS 用管理ツール

UPS 装置の障害を検知する場合は、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。（ただし VMware 環境では不要です）

なおソフトウェアは UPS 装置に添付されています。

- 日立製 UPS の場合 : Power Monitor HN
- APC 社製 UPS の場合 : Power Chute Business Edition
(HA8000 の Windows 環境のみ)
- HA8000/NS10 内蔵 UPS の場合 : Mi-Pack Manager II

syslog サービス (Linux のみ)

Log Monitor の OS ログ監視機能は、OS に標準インストールされる syslog サービスの下記のフォーマットにのみ対応しています。

- syslogd の標準フォーマット

```
Oct 31 00:00:00 localhost AppName[1234]: Message text ...
```

- syslogd の起動オプションに「-S または-SS」を指定した場合のフォーマット

```
Oct 31 00:00:00 <syslog.info> localhost AppName[1234]: Message text ...
```

- rsyslogd の標準フォーマット (「\$ActionFileDefaultTemplate」ディレクティブで「RSYSLOG_TraditionalFileFormat」を指定した場合)

```
Oct 31 00:00:00 localhost AppName[1234]: Message text ...
```

- rsyslogd の「\$ActionFileDefaultTemplate」ディレクティブで「RSYSLOG_FileFormat」を指定した場合のフォーマット

```
2011-10-31T00:00:00.913136+09:00 localhost AppName[1234]: Message text ...
```

32bit 実行環境ライブラリ (HA8000 で Linux の x86_64 環境のみ)

HA8000 で Linux の x86_64 環境の場合は、次のライブラリがインストールされている必要があります。

これらのパッケージは OS のインストール媒体に格納されています。

- glibc (32-bit x86)
- libstdc++ (32-bit x86)
- libgcc (32-bit x86)

検知対象障害

Log Monitor は以下の障害を検知することができます。
 ただし[前提ソフトウェア](#)(P.1-7)がインストールされ、正常に動作している必要があります。

No	部位(*7)		検知対象 (○:対象、-:対象外)			
			Blade Symphony (*5)	HA8000		
				Windows	Linux	VMware
1	システム装置	CPU 障害	-(*1)	○	○	○
2		メモリ障害/縮退	-(*1)	○	○	○
3		FAN 障害	-(*1)	○	○	○
4		マザーボード障害	-(*1)	○(*6)	○(*6)	○(*6)
5		電源障害	-(*1)	○	○	○
6		電圧異常	-(*1)	○	○	○
7		温度異常	-(*1)	○	○	○
8		RAID 縮退	○	○	○	○
9		RAID コントローラ障害	○	○	○(*4)	-
10		LAN コントローラ障害	○	○	○(*4)	-
11		SAS コントローラ障害	○	○	○(*3)	-
12		iSCSI コントローラ障害	○	○	○(*4)	-
13		FC コントローラ障害	○	○	○(*4)	-
14		PCIe Flash ドライブ障害	○	○	○	-
15		HA8000/NS10 内蔵 UPS	-	○	-	-
16	外部装置	エントリクラス ディスクアレイ障害 (BR1200)	○	○	○(*4)	○
17		日立製 UPS 障害	○	○	○(*4)	-
18		APC 社製 UPS 障害	-(*2)	○	-	-

*1: BladeSymphony では SVP で検知します。
 *2: BladeSymphony では APC 社製 UPS をサポートしていません。
 *3: xL2 モデル以前の Linux 版では検知できません。
 *4: xH モデル以前の Linux 版では検知できません。
 *5: Virtage (日立サーバ仮想化機構) 環境では、占有デバイスのみ検知します。
 *6: BMC 障害は検知できません。
 *7: OS が起動しない障害は、OS 起動後に障害情報が記録されていれば検知します (BladeSymphony で SVP が検知する障害を除く)。

制限事項

ここでは Log Monitor を使用する前に知っておいていただきたい制限事項を説明します。

- OS ログ (Windows: イベントログ、Linux: syslog メッセージ) が高頻度 (5 件/秒超) で記録されている状態では、その頻度・発生時間に比例して障害の検知が遅れることがあります。
- Linux の場合、syslog メッセージがデフォルトフォーマット以外で記録されると、障害を検知できない場合があります。障害検知可能な syslog メッセージのフォーマットについては「[syslog サービス \(Linux のみ\)](#)」 P.1-9 をご覧ください。
- Log Monitor で障害監視を始める前に動作検証を実施してください。動作検証方法については「[3. Log Monitor の動作](#)」-「[動作検証](#)」 P.3-4 をご覧ください。なお、(株)日立システムズ(保守会社)で ASSIST 環境構築済みの場合は、不要です。
- Windows イベントログの保持ポリシーで、「イベントログサイズが最大値に達したとき」のオプションとして「イベントを上書きしないでログをアーカイブする」を指定した場合、障害イベントを検知できない場合があります。

VMware 環境での制限事項

- VMware 環境で使用する場合、検知できる障害に制限があります。詳細は、「[検知対象障害](#)」 P.1-10 を参照してください。

Log Monitor の導入

この章では、Log Monitor の導入方法について説明します。

- [Log Monitor のインストール前の準備](#)
- [BladeSymphony へのインストール](#)
- [HA8000 へのインストール](#)
- [アンインストール](#)
- [バージョンの確認](#)

インストール前の準備

インストール前の準備について説明します。

- [前提ソフトウェアのインストール](#) (P.2-2)
- [ファイアウォールの設定](#) (P.2-2)

前提ソフトウェアのインストール

Log Monitor のインストールの前に[前提ソフトウェア](#)(P.1-7)をインストールしてください。
インストール方法については、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

ファイアウォールの設定

ファイアウォールによる通信制限を行っているシステムでは、BladeSymphony のログ転送機能、または HA8000 で通報サービスとの連携を行う場合、23141/tcp と 23141/udp(HA8000 のみ)を外部通信許可に設定してください。

BladeSymphony へのインストール

BladeSymphony への Log Monitor のインストール方法について説明します。

なお動作環境によっては、Log Monitor 以外の環境構築・設定が必要な場合があります。

- [マネジメントモジュールと OS とのネットワーク設定 \(BS500,BS320 のみ\)](#) (P.2-4)
- [Virtage \(日立サーバ仮想化機構\) の設定](#) (P.2-4)
- [BladeSymphony - Windows へのインストール](#) (P.2-5)
- [BladeSymphony - Linux へのインストール](#) (P.2-8)



BladeSymphony 版 Log Monitor をアップグレードインストールすることはできません。必ずアンインストール後にインストールを行ってください。



Log Monitor のインストールによるシステム装置のリブートは必要ありません。
ただし[前提ソフトウェア](#)(P.1-7)のインストールでリブートが必要になる場合があります。
(各ソフトウェアのマニュアルを参照してください)

マネジメントモジュールと OS とのネットワーク設定 (BS500,BS320 のみ)

BS500 で BladeSymphony 版 Log Monitor のログ転送機能を使用する場合、または BS320 の場合のネットワーク設定について説明します。

BS500 でログ転送機能を使用しない場合は、本設定を行う必要はありません。

1. マネジメントモジュールの Log Monitor との連携設定を「有効」に設定してください。
設定方法は次のユーザガイドを参照してください。
BS500 : 「CLI コンソール ユーザーズガイド」の
「2.14 リモートアクセス」 – 「set hwm-agent port コマンド」
BS320 : 「設定ガイド マネジメントモジュール編」の
「4.3 コンソール情報設定」 – 「HWM コマンド」
2. OS の LAN ポートとマネジメントモジュールの管理 LAN ポートで通信が出来るようにネットワークを構築してください。
3. OS の LAN ポートとマネジメントモジュールの管理 LAN ポートで通信が出来るようにファイアウォールを設定 (23141/tcp ポートを解放) してください。

以上で設定は終了です。

Virtage (日立サーバ仮想化機構) の設定

Virtage 環境でシステム装置イベント (SEL) 管理ツールとして OS 標準 IPMI サービスを使用する場合 (JP1/ServerConductor/Agent を使用しない) は、Virtage の「Logical Partition Configuration」スクリーンで対象 LPAR の AC (Auto Clear) を Y(Yes) に設定してください。
(初期値: N(No) の場合は、SVP に正しく障害通知ができません)

BladeSymphony - Windows へのインストール

BladeSymphony - Windows へのインストール方法・設定方法・動作確認方法について説明します。

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor のインストール

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor のインストール方法について説明します。

1. "Administrator" でログオンします。
2. インストーラパッケージ内の次のインストーラを起動します。

Install.wsf

最新のインストーラパッケージは、下記ダウンロードサイトから入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/hsn/index.html>

機器添付の Hitachi Server Navigator DVD のインストーラパッケージを使用する場合、メディア内の「Support.html」を参照して格納フォルダをご確認ください。

「Support.html」に記載がない場合は、ダウンロードサイトからインストーラパッケージを入手してください。

3. 以降は画面の指示にしたがってインストールしてください。
(インストール中にカスタマイズ可能な設定はありません)

以上で Log Monitor のインストールは終了です。

...
補足

Virtage の場合は全ての論理サーバ(LPAR)上に Log Monitor をインストールしてください。

インストールに失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
The object platform is different. (OS)	サポートされていない OS 上でインストーラを起動した。 対処：なし。
The object platform is different. (ARCH)	プラットフォーム(ia32,x64)に合っていないインストーラを起動した。 対処：プラットフォームに合ったインストーラを実行する。
Microsoft Management Console(mmc) is running can not be installed.	マイクロソフトマネジメントコンソール(イベントビューワ、サービス、コンピュータの管理など)が起動されているため、インストールを中断した。 対処：マイクロソフトマネジメントコンソールを終了し、再度インストーラを実行する。
Not environment that can execute IPMI command.	前提ソフトウェア (P.1-7)のシステム装置イベント(SEL)管理ツールがインストールされていない。 対処：システム装置イベント(SEL)管理ツールをインストール後、Log Monitor インストーラを実行する。
It has already been installed. The installation is discontinued.	既に Log Monitor またはハードウェア保守エージェントがインストールされている。 対処：アップグレードする場合は、Log Monitor またはハードウェア保守エージェントをアンインストール後、インストーラを実行する。

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor の設定

マネジメントモジュールへのログ転送機能を使用する場合の、設定方法について説明します。
なお本操作は Log Monitor のインストールまたは起動後 5 分以上経ってから行ってください。

1. "Administrator" でログオンします。
2. スタートメニューから「Hitachi Server Navigator」→「Log Monitor」→「Connect Test Tool」を起動します。
または次のコマンドを実行します。

C:\Program Files\HITACHI\miacat\Program\MRegWinBS.exe

3. Connect Test Tool ダイアログが表示されるので、「Option...」ボタンをクリックします。
4. Option ダイアログが表示されるので、「Setting...」ボタンをクリックします。
5. Setup ダイアログが表示されるので、「Log Collector」の設定を行います。
次のように設定を変更してください。

設定名	設定値
Permission to send log	有効にする (チェックを付ける)
IP Address Connect with SVP	通信に使用する OS 側の IP アドレスを入力する

6. 設定完了後、「OK」ボタンをクリックし、Connect Test Tool を終了します。

以上で設定は終了です。

設定に失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

[Connect Test Tool] The error of the Log Monitor was detected.
[Log Monitor] (詳細メッセージ)

詳細メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
It is initialization. The test report demand was canceled.	サービスが初期化処理中のため、設定または接続確認をキャンセルした。 対処：インストールまたは起動から 5 分以上経過後に再度接続確認を実行する。
Failed in the SEL output.	設定情報または障害イベントコードをマネジメントモジュールへ記録できなかった。 対処： 前提ソフトウェア (P.1-7)のシステム装置イベント(SEL)管理ツールがインストールされているか確認する。
Because the number of accumulation of alert report demands was exceeded, it was annulled.	イベントの検知処理中のため、設定または接続確認が受けられない。 対処：10分ほど時間をおいて再度実行する。

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor の動作確認

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor とマネジメントモジュールとの連携確認（接続確認）を行うための操作方法について説明します。

なお本操作は Log Monitor のインストールまたは起動後 5 分以上経ってから行ってください。

1. "Administrator" でログオンします。
2. スタートメニューから「Hitachi Server Navigator」→「Log Monitor」→「Connect Test Tool」を起動します。
または「C:\Program Files\Hitachi\miacat\Program\MRegWinBS.exe」を起動します。
3. Connect Test Tool ダイアログが表示されるので、「Connection Test...」ボタンをクリックします。
4. Connection Confirmed ダイアログが表示されるので、「Start」ボタンをクリックします。
この時、SVP から保守会社受付窓口への通報が可能（ASSIST 通報構築済み）な場合、本操作により保守会社受付窓口へのテスト用通報が送信されます。
5. 正常に終了した場合は、ダイアログに「Connected confirmation was completed」のメッセージを表示します。

以上でマネジメントモジュールとの連携確認（接続確認）は終了です。

マネジメントモジュールとの連携確認（接続確認）に失敗した場合、前述の「[設定に失敗した場合のメッセージ](#)」P.2-6 を参照してください。

…
補足

ファイアウォール機能を有効としている環境において、本作業時に次のウィンドウが表示された場合、[ブロックを解除する(U)] ボタンをクリックして処理を続行してください。



BladeSymphony - Linux へのインストール

BladeSymphony - Linux 版 Log Monitor のインストール

BladeSymphony - Linux 版 Log Monitor のインストール方法について説明します。

1. root 権限でログオンします。
2. rpm コマンドにより Log Monitor の rpm ファイルをインストールします。
(rpm ファイルはインストーラパッケージ内にあります)

ia32 の場合 : `rpm -i MIACAT-xxxx-x.i386.rpm`

x64 の場合 : `rpm -i MIACAT-xxxx-x.x86_64.rpm`

最新のインストーラパッケージは、下記ダウンロードサイトから入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/hsn/index.html>

機器添付の Hitachi Server Navigator DVD のインストーラパッケージを使用する場合、メディア内の「Support.html」を参照して格納フォルダをご確認ください。

「Support.html」に記載がない場合は、ダウンロードサイトからインストーラパッケージを入手してください。

以上で Log Monitor のインストールは終了です。

インストールに失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
パッケージ MIACAT-xxxx-x は既にインストールされています。 (英語:package MIACAT-xxxx-x is already installed)	既に Log Monitor またはハードウェア保守エージェントがインストールされている。 対処: アップグレードする場合は、Log Monitor またはハードウェア保守エージェントをアンインストール後、インストールを行ってください。
Failed. You are not root user.	実行ユーザが"root"ではありません。 対処: 実行ユーザを"root"に切り替えてインストールしてください。
OpenIPMI-tools or JP1/SC-Agent is not installed. OpenIPMI-tools or JP1/SC-Agent please install it.	JP1/ServerConductor/Agent または OpenIPMI-tools がインストールされていません。 対処: JP1/ServerConductor/Agent または OpenIPMI-tools をインストールし、再度実行してください。

BladeSymphony - Linux 版 Log Monitor の設定

マネジメントモジュールへのログ転送機能を使用する場合の、設定方法について説明します。

1. root 権限でログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。
`/opt/hitachi/miacat/Program/MRegCUI`
3. メニューが表示されるので、「3」（「1. オプション設定の変更」または「3. Change optional configuration.」）を入力します。
4. 設定項目が順次表示されるので、次の設定値を変更します。

設定名	設定値
ログ送付許可(Log sending)	Yes
SVP と接続する IP アドレス (IPAddress Connect with SVP)	通信に使用する OS 側の IP アドレスを入力する

上記以外の設定項目は ENTER のみを入力し、スキップしてください。

5. 「設定情報を更新しますか？」または「Do you update this configuration ?」が表示されたら、「Yes」を入力してコマンドを終了します。

以上で設定は終了です。

設定に失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

```
Log Monitor のエラーを検知しました。 <0x00000000/0x00000000>
(または The error of the Log Monitor was detected.)
[Log Monitor]
(詳細メッセージ)
```

詳細メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
It is initialization. The test report demand was canceled.	サービスが初期化処理中のため、設定または接続確認をキャンセルした。 対処：インストールまたは起動から 10 分以上経過後に再度接続確認を実行する。
Failed in the SEL output.	設定情報または障害イベントコードをマネジメントモジュールへ記録できなかった。 対処：前提ソフトウェアのシステム装置イベント(SEL)管理ツールがインストールされているか確認する。
Because the number of accumulation of alert report demands was exceeded, it was annulled.	イベントの検知処理中のため、設定または接続確認が受けられない。 対処：10 分ほど時間をおいて再度実行する。

BladeSymphony - Linux 版 Log Monitor の動作確認

BladeSymphony - Linux 版 Log Monitor とマネジメントモジュールとの連携確認(接続確認)を行うための操作方法について説明します。本操作は Log Monitor のインストールまたは起動後 10 分以上経ってから実施願います。

1. root 権限でログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。
`/opt/hitachi/miacat/Program/MRegCUI`
3. メニューが表示されるので、「1」（「1. SVP との接続確認」または「1. Check connection with an obstacle report service center.」）を入力します。
4. 実行確認のメッセージが表示されるので、「y」を入力します。
この時、SVP から保守会社受付窓口への通報が可能（ASSIST 通報構築済み）な場合、本操作により保守会社受付窓口へのテスト用通報が送信されます。
5. 正常に終了した場合は、「接続確認は成功しました」または「Connection check succeeded.」のメッセージを表示します。

以上でマネジメントモジュールとの連携確認（接続確認）は終了です。

マネジメントモジュールとの連携確認（接続確認）に失敗した場合、前述の「[設定に失敗した場合のメッセージ](#)」P.2-9 を参照してください。

HA8000 へのインストール

HA8000 への Log Monitor のインストール方法について説明します。

- [HA8000 - Windows へのインストール](#) (P.2-12)
- [HA8000 - Linux へのインストール](#) (P.2-13)
- [HA8000 VMware - Windows\(ゲスト OS\)へのインストール](#) (P.2-14)
- [HA8000 VMware - Linux\(ゲスト OS\)へのインストール](#) (P.2-15)



【VMware 環境の注意事項】

- ゲスト OS (障害検知用ゲスト OS) に Log Monitor をインストールしてください。
- 監視する HA8000 毎に 1 つの障害検知用ゲスト OS が必要です。
- 1 台の HA8000 を複数の障害検知用ゲスト OS で監視することはできません。
- 障害検知用ゲスト OS は、常時動作するように構成してください。



Log Monitor のインストール／アップグレードによるシステム装置のリブートは必要ありません。

ただし[前提ソフトウェア](#)(P.1-7)のインストールでリブートが必要になる場合があります。
(各ソフトウェアのマニュアルを参照してください)

HA8000 - Windows へのインストール

HA8000 - Windows 版 Log Monitor のインストール

HA8000 - Windows 版のインストール方法について説明します。
既に旧バージョンがインストールされている場合も同じ手順でインストールできます。
(旧バージョンをアンインストールする必要はありません。またすべての設定が引き継がれます。)

1. "Administrator" でログオンします。
2. インストーラパッケージ内にある次のインストーラを実行します。

`MIACAT.exe`

最新のインストーラパッケージは、下記ダウンロードサイトから入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/hsn/index.html>

機器添付の Hitachi Server Navigator DVD のインストーラパッケージを使用する場合、メディア内の「Support.html」を参照して格納フォルダをご確認ください。

「Support.html」に記載がない場合は、ダウンロードサイトからインストーラパッケージを入手してください。

3. 以降は画面の指示にしたがってインストールしてください。
(インストール中にカスタマイズ可能な設定はありません)

以上で Log Monitor のインストールは終了です。

インストールに失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
Not support this OS version.	インストールしようとしている OS は、Log Monitor でサポートされていません。
You do not have access to make the required system configuration modifications. Stop the installation. Please rerun this installation from an administrators account.	システムの設定を変更する権利がありません。 対処: アドミニストレータ権限を持つユーザでインストールしてください。
Stop the installation. Remote Maintenance Option Setting Tool is running. Please start an installer after terminating Remote Maintenance Option Setting Tool.	ハードウェア保守登録プログラムが実行中です。 対処: ハードウェア保守登録プログラムを停止させてから、Log Monitor のインストールを実行してください。

HA8000 - Linux へのインストール

HA8000 - Linux 版 Log Monitor のインストール

HA8000 - Linux 版の新規インストールとアップグレードの方法について説明します。

1. root 権限でログオンします。
2. rpm コマンドにより Log Monitor の rpm ファイルをインストールします。
(rpm ファイルはインストーラパッケージ内にあります)

新規インストール : `rpm -i MIACAT-xxxx-x.i386.rpm`

アップグレード : `rpm -U MIACAT-xxxx-x.i386.rpm`

(アップグレードでは、すべての設定が引き継がれます)

"x"(イタリック体) : バージョン番号等の英数字が入ります。

最新のインストーラパッケージは、下記ダウンロードサイトから入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/hsn/index.html>

機器添付の Hitachi Server Navigator DVD のインストーラパッケージを使用する場合、メディア内の「Support.html」を参照して格納フォルダをご確認ください。

「Support.html」に記載がない場合は、ダウンロードサイトからインストーラパッケージを入手してください。

以上で Log Monitor のインストールは終了です。

インストールに失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
MIACAT-xxxx-x is already installed.	【新規インストールのみ】 Log Monitor またはハードウェア保守エージェントが既にインストールされている。 対処 : アップグレードを実施してください。
Failed. You are not root user.	実行ユーザが"root"ではありません。 対処 : 実行ユーザを"root"に切り替えてインストールしてください。
This machine is un-support model, or failed to read model code.	未サポートの機器に対してインストールしようとした。

HA8000 VMware - Windows(ゲスト OS)へのインストール

VMware 環境の場合は、ゲスト OS に Log Monitor をインストールしてください。

HA8000 - Windows 版 Log Monitor のインストール

ゲスト OS に HA8000 - Windows 版 Log Monitor をインストールする方法について説明します。

1. ゲスト OS に "Administrator" でログオンします。
2. インストーラパッケージ内にある次のバッチファイルを実行します。

`MIACAT_vmware_install.bat`

最新のインストーラパッケージは、下記ダウンロードサイトから入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/hsn/index.html>

機器添付の Hitachi Server Navigator DVD のインストーラパッケージを使用する場合、メディア内の「Support.html」を参照して格納フォルダをご確認ください。

「Support.html」に記載がない場合は、ダウンロードサイトからインストーラパッケージを入手してください。

3. モデル選択メニューが表示されます。
システム装置のモデルの番号を入力してください。
4. 以降は画面の指示にしたがってインストールしてください。
(インストール中にカスタマイズ可能な設定はありません)
5. 「Installation successfully.」が表示されたらインストール完了です。

以上で Log Monitor のインストールは終了です。

インストールに失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
適用対象 OS ではないため、インストールを中止します。	インストールしようとしている OS は、Log Monitor でサポートされていません。
システムの設定を変更する権利がありませんので、インストールを中止します。アドミニストレータのアカウントでログオンし、再度インストールを実行してください。	システムの設定を変更する権利がありません。 対処: アドミニストレータ権限を持つユーザでインストールしてください。
ハードウェア保守登録プログラムが実行中です。ハードウェア保守登録プログラムを停止させてから、Log Monitor のインストールを実行してください。	ハードウェア保守登録プログラムが実行中です。 対処: ハードウェア保守登録プログラムを停止させてから、Log Monitor のインストールを実行してください。

HA8000 VMware - Linux(ゲスト OS)へのインストール

VMware 環境の場合は、ゲスト OS に Log Monitor をインストールしてください。

HA8000 - Linux 版 Log Monitor のインストール

ゲスト OS に HA8000 - Linux 版 Log Monitor をインストールする方法について説明します。

1. ゲスト OS に root 権限でログオンします。
2. インストーラパッケージ内にある次のインストーラを実行します。

`MIACAT_vmware_install.sh`

最新のインストーラパッケージは、下記ダウンロードサイトから入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/hsn/index.html>

機器添付の Hitachi Server Navigator DVD のインストーラパッケージを使用する場合、メディア内の「Support.html」を参照して格納フォルダをご確認ください。

「Support.html」に記載がない場合は、ダウンロードサイトからインストーラパッケージを入手してください。

3. 新規インストールの場合は、モデル選択メニューが表示されるので、システム装置のモデルの番号を入力してください。
アップグレードの場合は、「Do you update it? [y/n]:」が表示されるので、「y」を入力してください。
4. Log Monitor がインストールされます。
(インストール中にカスタマイズ可能な設定はありません)
5. 「Installation successfully.」または「Update successfully.」が表示されたらインストール完了です。

以上で Log Monitor のインストールは終了です。

インストールに失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
Failed. You are not root user.	実行ユーザが"root"ではありません。 対処：実行ユーザを"root"に切り替えてインストールしてください。
This machine is un-support model, or failed to read model code.	未サポートの機器に対してインストールしようとした。

アンインストール

Log Monitor のアンインストール方法について説明します。

Windows 版 Log Monitor のアンインストール

Windows 版のアンインストール方法について説明します。

1. "Administrator" でログオンします。
2. スタートメニューから「Hitachi Server Navigator」→「Log Monitor」→「Uninstall」を起動します。
または次のコマンドを実行します。

BladeSymphony の場合：

```
C:\Program Files\HITACHI\miacat\uninstall.wsf
```

HA8000 の場合：

```
C:\Program Files\H_Densa\SMAL2\UNINST.EXE  
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)
```

```
C:\Program Files\HITACHI\miacat\UNINST.EXE  
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)
```

以上で Log Monitor のアンインストールは終了です。

Linux 版 Log Monitor のアンインストール

Linux 版のアンインストール方法について説明します。

1. root 権限でログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
rpm -e MIACAT
```

以上で Log Monitor のアンインストールは終了です。

バージョンの確認

バージョンの確認方法について説明します。

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor のバージョンの確認

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor のバージョンの確認方法について説明します。

1. "Administrator" でログオンします。
2. スタートメニューから「Hitachi Server Navigator」→「Log Monitor」→「Connect Test Tool」を起動します。
または「C:\Program Files\Hitachi\miacat\Program\MRegWinBS.exe」を起動します。
3. Connect Test Tool ダイアログが表示されるので、「About...」ボタンをクリックします。
4. Log Monitor のバージョンが表示されます。

以上で Log Monitor のバージョンの確認は終了です。

HA8000 - Windows 版 Log Monitor のバージョンの確認

HA8000 - Windows 版 Log Monitor のバージョンの確認方法について説明します。

1. "Administrator" でログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
sc qdescription SMAL2_MainteAgtSvc
```
3. Log Monitor の製品名とバージョンが表示されます。

以上で Log Monitor のバージョンの確認は終了です。

Linux 版 Log Monitor のバージョンの確認

Linux 版 Log Monitor のバージョンの確認方法について説明します。

1. root 権限でログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
rpm -qi MIACAT
```
3. 「Version」にバージョン番号が表示されます。

以上で Log Monitor のバージョンの確認は終了です。

Log Monitor の操作

この章では、Log Monitor の操作方法について説明します。

- [障害解析結果コード\(RC\)の参照 \(HA8000 のみ\)](#)
- [動作検証 \(HA8000 のみ\)](#)

障害解析結果コード(RC)の参照 (HA8000 のみ)

HA8000 で障害解析結果コード(RC)を参照する方法について説明します。

…
補足

発生したハードウェア障害の事象を保守会社に障害連絡していただく際に、障害解析結果コード (RC) も併せて連絡していただくと、対策時間の短縮を図ることができます。

保守会社への障害連絡には「問診票」(*1)または「障害状況連絡シート」(*2)をご利用ください。障害解析結果コード (RC) を記載する欄があります。

*1 : HA8000xG/xH/xJ モデルの場合は「問診票」をお使いください。

「問診票」は Log Monitor のインストールパッケージ内に電子データとして格納されています。

*2 : HA8000xK モデル以降の場合は「障害状況連絡シート」をお使いください。

「障害状況連絡シート」は、『ユーザーズガイド』メディア (システム装置に添付) に電子データとして格納されています。

…
補足

BladeSymphony ではマネジメントモジュールで障害解析結果コード(RC)を参照することができます。

1. 管理者権限でログオンします。

Windows の場合 : "Administrator"

Linux の場合 : "root"

2. RC Viewer を起動します。

Windows の場合 :

スタートメニューから「Hitachi Server Navigator」→「Log Monitor」→
「RC Viewer」を起動します。

または次のコマンドを実行します。

xL2 モデル以前 : `C:\Program Files\H_Densa\SMAL2\Program\ASSIST\ccp.exe`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

xM モデル以降 : `C:\Program Files\HITACHI\miacat\Program\ASSIST\ccp.exe`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

Linux の場合 :

次のコマンドを実行します。

xL2 モデル以前 : `/opt/H_Densa/SMAL2/Program/ASSIST/ccp`

xM モデル以降 : `/opt/hitachi/miacat/Program/ASSIST/ccp`

3. 障害解析結果コード(RC)が表示されます。

```
MODEL CODE : N/A / PRODUCT No. : N/A
MODEL NAME : HA8000/TS20AM
MODEL FRU : 0020T20500
RC DICT : xm_ts20_10-hxm_25/xM-00-01

date/time          Lv RE UID  EC Failure  Additional
-----
12/08/01 15:24:33  ** 10 E400 10 19006500 65000000
12/08/01 15:23:35   10 0100 E2 1F22FFFF 6F06FFFF
12/08/01 15:23:33   10 2000 E0 09370BF1 0BA1FFFF
12/08/01 15:23:33   10 2000 AC 042F0BF1 0BA1FFFF
      発生日時          障害解析結果コード(RC)
-- (q:quit) --
```

4. 「q」を入力して RC Viewer を終了します。

以上で障害解析結果コード(RC)の参照は終了です。

動作検証（HA8000 のみ）

HA8000 で Log Monitor の動作検証する方法について説明します。

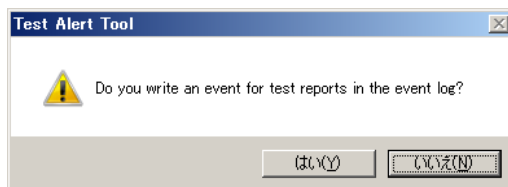
1. 管理者権限でログオンします。
Windows の場合 : "Administrator"
Linux の場合 : "root"
2. テストアラート実行ツールを起動します。

Windows の場合 :
次のコマンドを実行します。

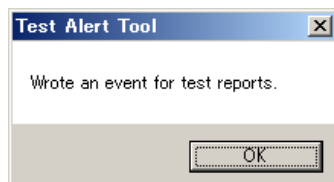
xL2 モデル以前 : `C:\Program Files\H_Densa\SMAL2\Program\ASSIST\testalt.wsf`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

xM モデル以降 : `C:\Program Files\HITACHI\miacat\Program\ASSIST\testalt.wsf`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

コマンドを実行すると「Test Alert Tool」画面が表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。



テストアラート実行を示す画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリックして終了です。



Linux の場合 :

次のコマンドを実行します。

xL2 モデル以前 : `/opt/H_Densa/SMAL2/Program/ASSIST/testalt.sh`

xM モデル以降 : `/opt/hitachi/miacat/Program/ASSIST/testalt.sh`

コマンドを実行すると実行確認のメッセージが表示されるので、[yes] を入力します。

```
# /opt/hitachi/miacat/Program/ASSIST/testalt.sh
==== TEST ALERT TOOL ====
Do you write a message for test reports in the syslog?
(yes|no|no): yes
```

テストアラート実行を示すメッセージ("Wrote a message for test reports.")が表示されて終了です。

```
# /opt/hitachi/miacat/Program/ASSIST/testalt.sh
==== TEST ALERT TOOL ====
Do you write a message for test reports in the syslog?
(yes|no|no): yes
Wrote a message for test reports.
```

3. 3分程度待った後 RC Viewer を起動します。

Windows の場合 :

スタートメニューから「Hitachi Server Navigator」→「Log Monitor」→「RC Viewer」を起動します。

または次のコマンドを実行します。

xL2 モデル以前 : `C:\Program Files\H_Densa\SMAL2\Program\ASSIST\ccp.exe`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

xM モデル以降 : `C:\Program Files\HITACHI\miacat\Program\ASSIST\ccp.exe`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

Linux の場合 :

次のコマンドを実行します。

xL2 モデル以前 : `/opt/H_Densa/SMAL2/Program/ASSIST/ccp`

xM モデル以降 : `/opt/hitachi/miacat/Program/ASSIST/ccp`

4. 障害解析結果コード(RC)が表示されますので、下記に示す RC が表示されることを確認してください。

確認する RC : 10 E000 FA F00001FF 01FFFFFF

MODEL CODE : N/A / PRODUCT No. : N/A					
MODEL NAME : HA8000/TS20AM					
MODEL FRU : 0020T20500					
RC DICT : xm_ts20_10-hxm_25/xM-00-01					
date/time	Lv	RE	UID	EC	Failure Additional

12/08/01 15:24:33		10	E000	FA	F00001FF 01FFFFFF
12/08/01 15:23:35		10	0100	E2	1F22FFFF 6F06FFFF
12/08/01 15:23:33		10	2000	E0	09370BF1 0BA1FFFF
12/08/01 15:23:33		10	2000	AC	042F0BF1 0BA1FFFF
発生日時		障害解析結果コード(RC)			
-- (q:quit) --					

なお、OS インストール直後は、表示されない場合があります。その際は、「2.テストアラート実行ツールを起動」から再度実行してください。

5. 「q」を入力して RC Viewer を終了します。

以上で Log Monitor の動作検証は終了です。

リモート保守サービスの構築(HA8000 のみ)

この章では、リモート保守サービスの構築方法について説明します。
なお、リモート保守サービスは HA8000 のみのサービスとなります。

- [リモート保守サービスの概要](#)
- [リモート保守サービスの注意事項](#)
- [リモート保守サービスの導入手順](#)
- [設定情報の変更](#)
- [リモート保守サービスの解除](#)

リモート保守サービスの概要

この章では、リモート保守サービスの概要について説明します。

- [リモート保守サービスの機能](#)
- [リモート保守サービスの前提契約](#)
- [リモート保守サービスの適用機器とサポート OS](#)
- [リモート保守サービスの前提環境](#)

リモート保守サービスの機能

リモート保守サービスは、Log Monitor の障害検知を契機に障害情報を(株)日立システムズ（保守会社）に自動送信(e-mail)するサービスです。
これにより、お客様から障害連絡を受付けた際に効率よく現象の把握や障害解析が行えるようになります。

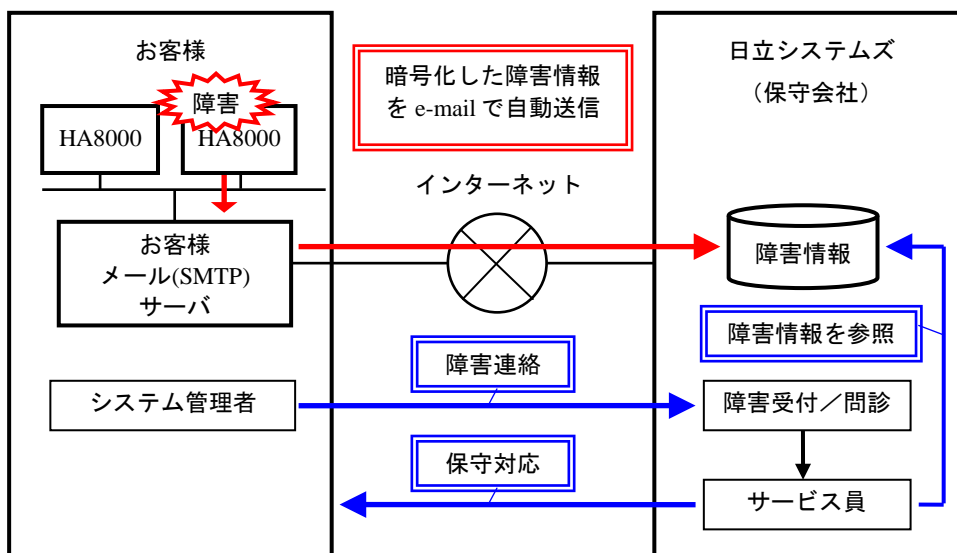


障害情報の自動送信は、お客様からの障害連絡の代わりにするサービスではございません。従来通り、お客様からの障害連絡をいただく必要があります。



e-mail で送信される障害情報は独自の暗号処置をしておりますので、公共のインターネット内で盗聴等がされた場合でも情報漏洩の心配はありません。

以下にリモート保守サービスの構成例と流れを示します。



リモート保守サービスの前提契約

リモート保守サービスのご利用は、(株)日立システムズ（保守会社）との以下の保守契約が前提となります。

- ・ 無償保証サービス（サービス期間中であること）
- ・ 維持保守サービス
- ・ 出張修理サービス

リモート保守サービスの適用機器とサポート OS

適用機器

リモート保守サービスは、HA8000 のみサポートします。

サポート OS

リモート保守サービスは、Windows 環境のみサポートします。

リモート保守サービスの前提環境

リモート保守サービスを導入・運用するために前提となるシステム環境について説明します。

- お使いの Windows が ServerCore 環境の場合、リモート保守サービスの導入はリモートデスクトップを使い、解像度を 1024x786 以上に設定して行ってください。
（システム装置に接続されたコンソール装置では解像度が低いため操作を行えません）
- 本サービスを使用するためには、e-mail の送受信ができる環境と、Web アクセスができる環境が事前に必要となります。
また e-mail は以下の設定で送信します。メールサーバ等のセキュリティポリシーにより、本設定での e-mail 送信ができない、またはメールサーバ側でメールの本文等を変更する場合は、本サービスを使用することはできません。

項目	設定値
送信先メールアドレス	登録時 : remsm_regist@support.hitachi-systems.com 接続確認/障害情報送信時 : remsm_report@support.hitachi-systems.com
添付ファイル	あり
プロトコル	SMTP
SMTP 認証(ユーザ認証)	なし
TLS 暗号化	なし
SMTP 通信ポート	25 (services ファイルに SMTP ポートの指定がある場合はその値に従う)

リモート保守サービスの注意事項

この章では、リモート保守サービスの注意事項について説明します。

サービス内容に関して

- 障害情報の送信先は、日立ソリューションサポートセンタ（以後、障害通報サービスセンタと表記）のみとなっております。お客様自身でハードウェア障害の通知をお受けになりたい場合は、JP1/ServerConductor の「e-mail 通知機能」をご利用ください。
- 障害情報の送信は、お客様からの障害連絡の代わりにするサービスではありません。障害発生時はお客様からの障害連絡をいただく必要があります。
- 障害内容によっては障害情報を送信しない場合があります。
- 通信経路に公共のインターネット網を利用するため、通信経路上の障害などが原因で、障害情報が保守会社まで届かない場合や受信が遅れる場合があります。
- 本サービスの申請・運用時間は、ハードウェア保守サービスのサービス時間と同じとなります。サービス時間外の申請・障害情報の受信は致しませんが、対応についてはサービス時間内となります。
- 本サービスの開始は、接続確認の結果連絡を保守会社より受けた時点からになります。
- 対象システム装置の設置場所が変わった場合には、再申請が必要となります。

運用中の設定変更に関して

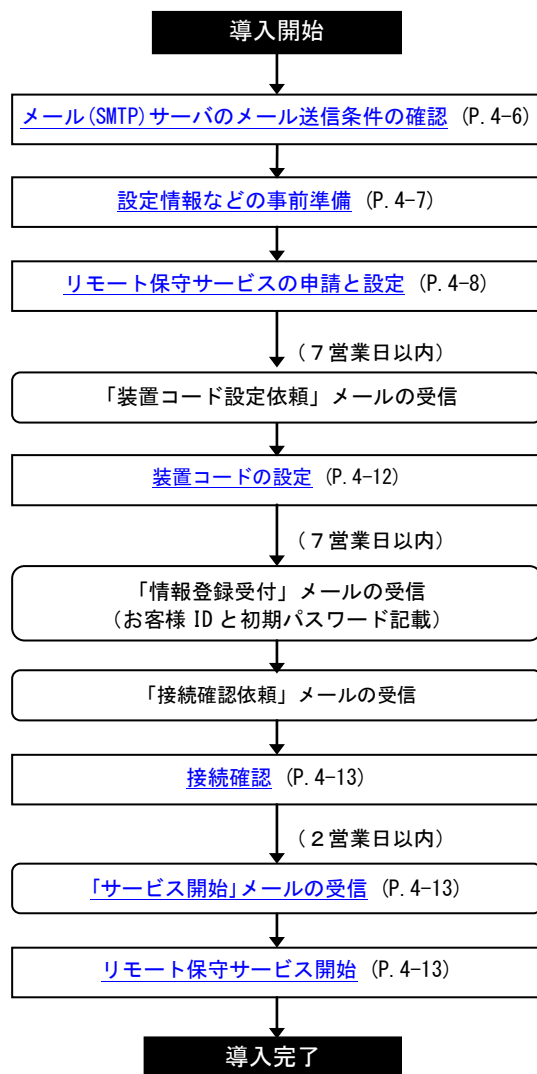
SMTP サーバの設定を変更されましたら、リモート保守オプション設定ツールにて設定情報を変更後、「接続確認」を行ってください。正しく設定されていないとリモート保守サービスを提供できなくなります。

リモート保守サービスの導入手順

この章では、リモート保守サービスの導入手順について説明します。

以下に導入の流れを示します。

なお Log Monitor のインストール方法については、「[HA8000 - Windows へのインストール](#)」(P.2-12)を参照してください。



メール(SMTP)サーバのメール送信条件の確認

お客様のメール(SMTP)サーバが次の設定でメール送信できることを確認してください。

項目	設定値
送信先メールアドレス	登録時 : remsm_regist@support.hitachi-systems.com 接続確認/障害情報送信時 : remsm_report@support.hitachi-systems.com
添付ファイル	あり
プロトコル	SMTP
SMTP 認証(ユーザ認証)	なし
TLS 暗号化	なし
SMTP 通信ポート	25 (services ファイルに SMTP ポートの指定がある場合はその値に従う)

セキュリティポリシー等の理由により、本設定でのメール送信ができない場合は、リモート保守サービスを使用することはできません。

またメールの中継時にメールの内容が変更される場合もリモート保守サービスを使用することはできません。

リモート保守サービスの申請と設定

リモート保守サービスの申請と設定の方法を説明します。

設定に際して、ご記入いただいた設定情報ワークシートをご準備ください。

リモート保守オプション設定ツールの起動手順

リモート保守サービスの申請および各種設定で使用するリモート保守オプション設定ツールの起動手順について説明します。

なお、途中でエラーメッセージが表示された場合には、「[リモート保守オプション設定ツールのエラー一覧](#)」P.5-9を参照し、対処してください。



ファイアウォール機能を有効としている環境では、以降の作業中にファイアウォールによる警告ウィンドウが表示されることがあります。その場合は「ブロックを解除する」を選択して処理を続行してください。

1. リモート保守オプション設定ツールの起動

次のコマンドを実行してください。

xL2 モデル以前 : `C:\Program Files\H_Densa\SMAL2\Program\SMAL2MRegA.exe`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

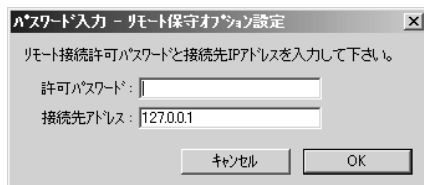
xM モデル以降 : `C:\Program Files\HITACHI\miacat\Program\SMAL2MRegA.exe`
(x64 環境では「C:\Program Files(x86)」になります)

ツールの起動はアドミニストレータ権限のあるアカウントで行ってください。

2. リモート接続許可パスワードと接続先アドレスの入力

「パスワード入力」画面が表示されるので、リモート接続許可パスワードを入力して [OK] ボタンをクリックします。

接続先アドレスの設定値(127.0.0.1)は変更しないでください。

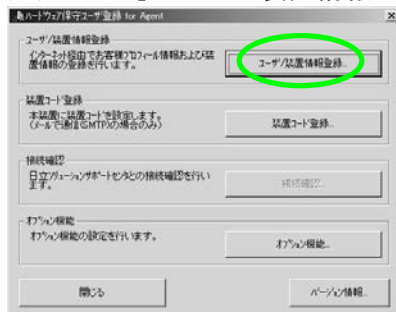


以降は、申請および各設定の手順に従ってください。

申請および設定手順

リモート保守サービスの申請手順について説明します。

1. リモート保守オプション設定ツールの起動
「[リモート保守オプション設定ツールの起動手順](#)」P.4-8 を参照。
2. [ハードウェア保守ユーザ登録] 画面が表示されます。
画面上の [ユーザ/装置情報の登録] ボタンをクリックします。



3. [利用規約の同意] 画面が表示されるので、利用規約を確認します。
利用規約に同意される場合は、[利用規約に同意します。] チェックボックスをチェックして、[次へ(N)>] ボタンをクリックしてください。



4. [お客様 ID・パスワードの入力] 画面が表示されます。
他の装置の登録を行っており、お客様 ID を取得済みの方は、[お客様 ID は取得済みです。] を選択して、お客様 ID とパスワードを入力します。
入力を行った後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



5. [お客様 ID・パスワードの入力] 画面で [新規にお客様 ID を取得します。] を選択された場合は、[お客様情報の入力] 画面が表示されるので、リモート保守サービスを申請される方の情報を入力した後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。
リモート保守サービスに関するお問い合わせ回答などのやり取りについては、この情報を元に行います。

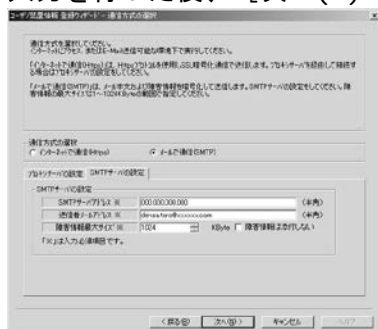
6. [装置情報の入力] 画面が表示されるので、リモート保守サービスを行う装置の情報を入力した後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

7. [サービスおよび機能の選択] 画面が表示されるので、障害自動通報機能／メール配信サービスを選択し [次へ(N)>] ボタンをクリックします。
「障害自動通報機能」の [本機能を利用します] のチェックを外した場合、ハードウェア障害時の自動通報が行われませんので注意してください。

[お客様 ID・パスワードの入力] 画面で [新規にお客様 ID を取得します。] を選択された場合

[お客様 ID・パスワードの入力] 画面で [お客様 ID は取得済みです。] を選択された場合

8. 「通信方式の選択」画面が表示されるので、SMTP サーバの設定を入力します。入力を行った後、「次へ(N)>」ボタンをクリックします。



9. 「登録情報の確認」画面が表示されるので、入力した内容を確認します。正しければ、「登録」ボタンをクリックします。誤りがあれば、「<戻る(B)」ボタンをクリックして訂正してください。



10. 登録完了画面が表示されるので、「完了」ボタンをクリックして終了します。

この後、障害通報サービスセンターにてリモート保守サービスの設定が行われます。これには 7 営業日程度お時間をいただきます。

障害通報サービスセンターでの設定が終了した後、登録いただいた e-mail アドレスに「装置コード設定依頼」メールを送信させていただきます。「装置コード設定依頼」メールを受信後、「[装置コードの設定](#)」P.4-12 を実施します。

(お客様 ID と初期パスワードは「装置コードの設定」後に送信いたします)

装置コードの設定

装置コードの設定方法を説明します。

設定に際して、障害通報サービスセンターより返信された装置コードを記載したメールをご準備ください。

設定手順

1. リモート保守オプション設定ツールの起動
「[リモート保守オプション設定ツールの起動手順](#)」 P.4-8 を参照。
2. [ハードウェア保守ユーザ登録] 画面が表示されます。
画面上の [装置コード登録] ボタンをクリックします。
3. [装置コード設定] 画面が表示されます。
障害通報サービスセンターより返信されたメールに記載されている各項目を入力して [登録] ボタンをクリックします。

【 [インポート...] ボタン】

障害通報サービスセンターより返信されたメールには「装置コードファイル」が添付されています。このファイルを [インポート...] ボタンによりインポートすることで、簡単に装置コードの設定を行うことができます。

4. 登録完了画面が表示されるので、[完了] ボタンをクリックして終了します。

以上で、設定は終了です。

この後、障害通報サービスセンターにてリモート保守サービスの設定が行われます。これには 7 営業日程度お時間をいただきます。

障害通報サービスセンターでの設定が終了した後、登録いただいた e-mail アドレスにお客様 ID と初期パスワードを記載した「情報登録受付」メールと「接続確認依頼」メールを送信させていただきます。

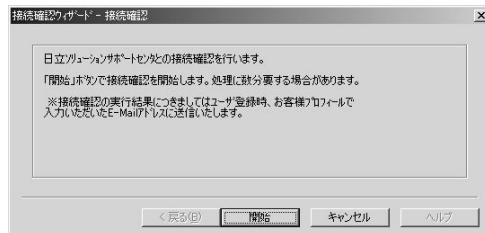
「接続確認依頼」メールを受信しましたら、続いて「[接続確認](#)」 P.4-13 を実施します。

接続確認

リモート保守サービスの申請後、障害通報サービスセンタより「接続確認依頼」メールを受信されましたら、以下の手順に従い「接続確認」を実施してください。

確認手順

1. リモート保守オプション設定ツールの起動
「[リモート保守オプション設定ツールの起動手順](#)」P.4-8 を参照。
2. [ハードウェア保守ユーザ登録] 画面が表示されたら、[接続確認] ボタンをクリックします。
3. [接続確認] 画面が表示されるので [開始] ボタンをクリックします。



4. [接続確認完了] 画面が表示されるので、正常に終了したことを確認します。
正常終了しなかった場合は「[リモート保守オプション設定ツールのエラー一覧](#)」P.5-9 を参照して対処してください。



保守会社からのサービス開始メール待ち

接続確認を実施されますと、2営業日以内に保守会社よりお客様情報に登録されたe-mailアドレスへ「サービス開始」メールを返信致します。

3営業日以上経っても保守会社より受信連絡がない場合は、保守会社にテスト通報が届いていない可能性がありますので、お客様のメール環境をご確認の上、再度送信してください。

リモート保守サービス開始

保守会社よりお客様情報に登録されたe-mailアドレスへ「サービス開始」メールが返信されましたら、リモート保守サービスが開始されます。

設定情報の変更

お客様情報と装置情報の変更と削除

本サービスの申請時に登録していただいたお客様情報と装置情報は、<https://portal.support.hitachi-systems.com/ar/>の Web アドレスからリンクされている「お客様専用ページ」に登録されています。お客様情報と装置情報を変更される場合は、「お客様専用ページ」より変更をお願いします。

なお「お客様専用ページ」へのアクセスには、申請時に保守会社よりメールにて返信させていただいた、お客様 ID およびパスワードが必要です。

また、正しく表示・登録していただくために、SSL 暗号化機能と Java スクリプト機能を有効にする必要があります。

Web ブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6.0 SP1 以降を推奨いたします。



セキュリティの確保などで必要となる機能が変更になる場合があります。アクセスされる場合は、Web 上にリンクされています「サービスをご利用について」の Web ページをご参照いただけますようお願いいたします。



リモート保守オプション設定ツールの [オプション機能] - [機能・通信方式変更] は使用できません。

設定情報の表示

1. リモート保守オプション設定ツールの起動
「[リモート保守オプション設定ツールの起動手順](#)」 P.4-8 を参照。
2. [ハードウェア保守ユーザ登録] 画面が表示されるので、[オプション機能] ボタンをクリックします。
3. [オプション機能] 画面が表示されるので、[設定情報一覧表示] ボタンをクリックします。
4. [設定情報] 画面が表示されるので、現在の設定情報を参照します。
参照後、[閉じる] ボタンをクリックして終了します。



環境設定の変更

1. リモート保守オプション設定ツールの起動
「[リモート保守オプション設定ツールの起動手順](#)」 P.4-8 を参照。
2. [ハードウェア保守ユーザ登録] 画面が表示されるので、[オプション機能] ボタンをクリックします。
3. [オプション機能] 画面が表示されるので、[環境設定] ボタンをクリックします。
4. [環境設定] 画面が表示されるので、情報を変更して [OK] ボタンをクリックします。
(SMTP サーバの設定) (ログ関係の設定)



5. [環境設定完了] 画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリックして終了します。

以上で、設定情報の変更は終了です。設定情報変更後は、正しく変更されたことを確認するため「[接続確認](#)」 P.4-13 を実施してください。

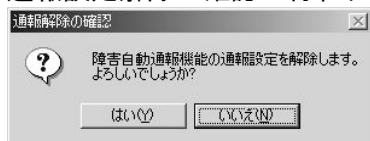
リモート保守サービスの解除

「[お客様情報と装置情報の変更と削除](#)」P.4-14に記載されている“お客様専用ページ”より、障害通報機能の解除を行う装置の装置情報を削除します。
障害通報サービスセンタより設定変更後、メールにて設定解除コードをお知らせいたします。
なお、設定解除コードのお知らせまでに1営業日程度お時間をいただく場合があります。

1. リモート保守オプション設定ツールの起動
「[リモート保守オプション設定ツールの起動手順](#)」P.4-8を参照。
2. [ハードウェア保守ユーザ登録]画面で、[オプション機能]ボタンをクリックします。
3. [オプション機能]画面が表示されるので、[通報解除]ボタンをクリックします。
4. [通報解除コードの入力]画面が表示されるので、メールにて連絡された設定解除コードを入力して[設定解除]ボタンをクリックします。



5. 通報設定解除の確認が行われるので、[はい(Y)]ボタンをクリックします。



6. 通報設定解除の完了画面が表示されるので、[完了]ボタンをクリックして終了します。

以上で、システム装置側の通報設定解除は終了です。

付録

この章では、Log Monitor に関する補足情報を記載しています。

- [メッセージ一覧](#)
- [インストールフォルダ構成](#)
- [IT Report Utility 連携 - 収集情報一覧](#)
- [リモート保守オプション設定ツールのエラー一覧](#)

メッセージ一覧

Log Monitor が出力するメッセージ一覧について説明します。

- [BladeSymphony - Windows 版のイベントローガー一覧](#) (P.5-2)
- [BladeSymphony - Linux 版の syslog メッセージ一覧](#) (P.5-3)
- [HA8000 - Windows 版のイベントローガー一覧](#) (P.5-4)
- [HA8000 - Linux 版の syslog メッセージ一覧](#) (P.5-5)

BladeSymphony - Windows 版のイベントローガー一覧

BladeSymphony - Windows 版 Log Monitor が出力するイベントログのメッセージ一覧について説明します。

イベントログの一覧を以下に表記します。

イベントソース名称：「SMAL2_MainteAgtSvc」

EventID	メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
1	----- Service Start -----	Log Monitor を開始した。
2	----- Preparation completion. -----	IPMI コマンドの準備が完了した。
3	----- Service End -----	Log Monitor を停止した。
10	SEL was written in BMC. DATE : xxxx/xx/xx xx:xx:xx SEL : xxxxxxxxxxxxxxxxx	SEL の出力が成功した。
15	Accepted a transmission request of the log. FROM:xxx.xxx.xxx.xxx (ログ収集要求元、IP アドレス) ORDER:xxxxxxxx	ログ収集要求を受信した。
16	Transferred a log file. TO:xxx.xxx.xxx.xxx(ログ送信先、IP アドレス) ORDER:xxxxxxxx	ログ収集要求に対する返信が完了した。
500	The test report is done. (TestReportOpportunity) CheckID: xxxxxxxx	接続確認を開始した。
1007	Failed in the SEL output. (ErrorCode : xxxxxxxx,DetailCode : xxxxxxxx) DATE : xxxx/xx/xx xx:xx:xx SEL : xxxxxxxxxxxxxxxxx	SEL の出力が失敗した。 対処：JP1/ServerConductor/Agent または SelManager が正しくインストールされているか確認してください。
1008	Login failed. ErrorCode:xxxxxxxx DetailCode:xxxxxxxx	ログ収集要求を拒否した。 対処：ログ収集許可の可否を確認してください。
1009	Failed in log transfer. ErrorCode: xxxxxxxx DetailCode: xxxxxxxx	ログ転送が失敗した。 対処：SVP との通信経路を確認してください。

BladeSymphony - Linux 版の syslog メッセージ一覧

BladeSymphony - Linux 版 Log Monitor が syslog に出力するメッセージ一覧について説明します。

Log Monitor のメッセージはタグ名称が「SMAL2_MainteAgtSvc」で出力されます。

```
Aug  2 16:38:07 RHEL6264 SMAL2_MainteAgtSvc[4026]: (メッセージ)
```

メッセージの一覧を以下に表記します。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
[INFO]----- Service Start -----	Log Monitor を開始した。
[INFO]----- Preparation completion. -----	IPMI コマンドの準備が完了した。
[INFO]----- Service End -----	Log Monitor を停止した。
[INFO] SEL was written in BMC.,Date : xxxx/xx/xx xx:xx:xx,SEL : xxxxxxxxxxxxxxxxx	SEL の出力が成功した。
[INFO] Receiving a request to collect the logs. FROM: xxx.xxx.xxx.xxx ORDER: xxxxxxxx	ログ収集要求を受信した。
[INFO] Transferred a log file.TO: xxx.xxx.xxx.xxx ORDER: xxxxxxxx	ログ収集要求に対する返信が完了した。
[INFO] The test report is done. (TestReportOpportunity)CheckID: { xxxxxxxx }	接続確認を開始した。
[WARN]Failed in the SEL output. (ErrorCode : xxxxxxx, DetailCode : xxxxxxxx), Date : xxxx/xx/xx xx:xx:xx,SEL : xxxxxxxxxxxxxxxxx	SEL の出力が失敗した。 対処: JP1/ServerConductor/Agent または SelManager が正しくインストールされているか確認してください。
[WARN] Login failed.(ErrorCode:xxxxxxx DetailCode:xxxxxxx)	ログ収集要求を拒否した。 対処: ログ収集許可の可否を確認してください。
[WARN] Failed in log transfer.(ErrorCode:xxxxxxx DetailCode:xxxxxxx)	ログ転送が失敗した。 対処: SVP との通信経路を確認してください。

HA8000- Windows 版のイベントログ一覧

HA8000 - Windows 版 Log Monitor が出力するイベントログのメッセージ一覧について説明します。

イベントログのログ内容一覧を以下に表記します。

イベントソース名称：「SMAL2_MainteAgtSvc」

EventID	メッセージ (内は英語)	意味と対処(必要な場合に記載)
4	メールサーバへ送信しました。 (Transmitted to the email server.)	SMTP 通信でお客様登録情報を送信した。
5	メールサーバへ送信しました。 (Transmitted to the email server.)	SMTP 通信で装置登録情報を送信した。
11	メールサーバへ送信しました。 (Transmitted to the email server.)	SMTP 通信で障害通報を送信した。
12	統合監視装置へ送信しました。 (Transmitted to the ASSIST agent.)	保守会社設置の統合監視装置に障害通報を送信した。
13	統合監視装置からログ収集要求を受信しました。 (Received a log collection demand from the ASSIST agent.)	保守会社設置の統合監視装置にログ情報を送信した。
14	統合監視装置へログ情報を送信しました。 (Transmitted log information to the ASSIST agent.)	保守会社設置の統合監視装置にログ情報を送信した。
100	ログ監視を開始しました。 (Started log monitoring.)	Log Monitor を開始した。
101	ライブチェック機能を開始しました。 (Started alive-check.)	ライブチェック機能を開始した。
102	統合監視装置からライブチェック機能の停止要求を受信したため、ライブチェック機能を停止しました。 (Stopped alive-check, because received the stop demand from the ASSIST agent.)	ライブチェック機能を停止した。
103	ログ監視を停止しました。 (Stopped log monitoring.)	Log Monitor を停止した。
500	テスト通報を発生させます。 (The test report is generated.)	テスト通報契機メッセージ送信する。
1002, 1003, 1007	通信制御でエラーが発生しました。 (An error occurred at communication control.)	SMTP 通信でエラーが発生した。 対処：HA8000 と SMTP サーバとの通信経路を確認してください。
1008	通信制御でエラーが発生しました。 (An error occurred at communication control.)	保守会社設置の統合監視装置に障害通報を送信中にエラーが発生した。 対処：HA8000 と統合監視装置との通信経路を確認してください。
2100	サービスの初期化に失敗しました。 (Failed in the initialization.)	ネットワークリソースの競合等により Log Monitor が終了した。 対処：Log Monitor で使用しているポート番号が競合していないか確認してください。
2101	ライブチェック機能を開始できませんでした。 統合監視装置との設定が不一致です。 (Failed to start of alive-check. The setting has not adjusted to the ASSIST agent.)	機器型名、製造番号等の設定情報が保守会社設置の統合監視装置の設定と一致していないため、ライブチェック機能を開始できない。 対処：設定情報を確認してください。

HA8000 - Linux 版の syslog メッセージ一覧

HA8000 - Linux 版 Log Monitor が syslog に出力するメッセージ一覧について説明します。

Log Monitor のメッセージはタグ名称が「SMAL2_MainteAgtSvc」で出力されます。

```
Aug  2 16:38:07 RHEL6264 SMAL2_MainteAgtSvc[4026]: [INFO] (メッセージ)
```

メッセージの一覧を以下に表記します。

メッセージ	意味と対処(必要な場合に記載)
[INFO] Transmitted to the CE-Station.	保守会社設置の統合監視装置に障害通報を送信した。
[INFO] Received a log collection demand from the failure report manager.	保守会社設置の統合監視装置にログ情報を送信した。
[INFO] Transmitted log information to the failure report manager.	保守会社設置の統合監視装置にログ情報を送信した。
[INFO] Started log monitoring.	Log Monitor を開始した。
[INFO] Started alive-check.	アライブチェック機能を開始した。
[INFO] Stopped alive-check, because received the stop demand from the failure report manager.	アライブチェック機能を停止した。
[INFO] Stopped log monitoring.	Log Monitor を停止した。
[INFO] The test report is generated.	テスト通報開始メッセージ。
[WARN] An error occurred at communication control.	保守会社設置の統合監視装置に障害通報を送信中にエラーが発生した。 対処：HA8000 と統合監視装置との間のネットワークを確認してください。
[ERROR] Failed in the initialization.	設定情報の不整合、ネットワークリソースの競合等により Log Monitor が終了した。 対処：Log Monitor で使用しているポート番号が競合していないか確認してください。
[WARN] Failed to start of alive-check. The setting has not adjusted to the failure report manager.	機器型名、製造番号等の設定情報が保守会社設置の統合監視装置の設定と一致していないため、アライブチェック機能を開始できない。 対処：設定情報を確認してください。

インストールフォルダ構成

Log Monitor のフォルダ構成について説明します。

Windows 版のフォルダ構成

Windows 版 Log Monitor のフォルダ構成について説明します。

C:\Program Files¥	(HA8000 の x64 環境の場合は「C:\Program Files (x86)¥」)
└ HITACHI¥miacat¥	(HA8000 の xL2 モデル以前の場合は「H_Densa¥SMAL2¥」)
├ Log	← 実行ログ格納フォルダ (本フォルダ下のファイルは実行中に作成・変更・削除されます)
├ LogCollector	← ログ採取プログラムフォルダ (固定ファイル)
├ MainteTool	← サブプログラムフォルダ (固定ファイル)
├ MainteData	← 定義・設定格納フォルダ (設定変更時にファイルが変更されます)
├ Program	← サービスプログラムフォルダ (固定ファイル)
└ Temp	← 一時ファイル格納フォルダ (本フォルダ下のファイルは実行中に作成・変更・削除されます)

Linux 版のフォルダ構成

Linux 版 Log Monitor のフォルダ構成について説明します。

/opt/	
└ hitachi/miacat/	(HA8000 の xL2 モデル以前の場合は「H_Densa/SMAL2/」)
├ LogCollector	← ログ採取プログラムフォルダ (固定ファイル)
├ MainteTool	← サブプログラムフォルダ (固定ファイル)
├ MainteData	← 定義・設定格納フォルダ (設定変更時にファイルが変更されます)
└ Program	← サービスプログラムフォルダ (固定ファイル)
/var/	
└ opt/hitachi/miacat	(HA8000 の xL2 モデル以前の場合は「H_Densa/SMAL2/」)
├ Log	← 実行ログ格納フォルダ (本フォルダ下のファイルは実行中に作成・変更・削除されます)
└ Temp	← 一時ファイル格納フォルダ (本フォルダ下のファイルは実行中に作成・変更・削除されます)

IT Report Utility 連携—収集情報—一覧

IT Report Utility と連携し、Log Monitor が収集するハードウェアのログ情報について説明します。

ログ情報は IT Report Utility で採取した資料中の"hard_log"ディレクトリ下に格納されます。IT Report Utility でハードウェアのログ情報だけ収集する場合は、実行コマンド(systoru)に「-g hard」を指定してください。（「-g」オプション無しですべてのログが収集されます）

ハードウェアのログ情報の一覧を以下に表記します。（○：収集対象）

【Windows 環境でのログ情報一覧】

概要	内容	ログ名	-t オプション	
			config	failure
OS 情報	OS 基本情報	OSINFO	○	○
	ドライバリスト	DRIVER	○	○
	OS 詳細情報	OSDINFO	○	○
OS メッセージ 情報	イベントログ(APPLICATION)	EVAC	—	○
	イベントログ(SYSTEM)	EVSC	—	○
RAID 関連 情報	MegaRAID コントローラの設定・ログ情報	MRCTL	○(*1)	○(*1)
	MegaRAID Storage Manager(MSM) イベントログ	MRMSM	○(*1)	○(*1)
	MegaRAID コントローラ配下の HDD Inquiry & LogSense 情報	MRHDD	—	○(*1)
サーバ本体 情報	サーバ本体のハードウェア情報（モデル等）	HWINFO	○(*1)	○(*1)
	ハードウェア保守エージェントが生成した RC 情報	RCLOG	○	○
	最新の SEL 情報	SELNEW	○	○
FC 関連情報	[日立製 FC] アダプタ情報	HFCCTL	○(*1)	○(*1)
ARCServe	ARCServe ログ情報	ARCSRV	—	○(*1)
UPS 関連情報	PCBE(PowerChute Business Edition) Agent イベントログ情報（EventLog）	PCBEAEV	—	○(*1)
	PCBE Agent データログ情報（DataLog）	PCBEADT	—	○(*1)
	PCBE Agent 設定情報（m11.cfg）	PCBEAMCF	—	○(*1)
	PCBE Agent 設定情報（m11.bak）	PCBEAMBK	—	○(*1)
	PCBE Agent その他ログ情報（debug.txt）	PCBEADBG	—	○(*1)
	PCBE Agent その他ログ情報（pcbeproxy.txt）	PCBEAPRX	—	○(*1)
	PCBE Sever 設定情報(m11.cfg)	PCBSMCF	—	○(*1)
	PCBE Sever 設定情報(m11.bak)	PCBSMBK	—	○(*1)
	PCBE Sever その他ログ情報(debug.txt)	PCBSDBG	—	○(*1)
	PCBE Sever その他ログ情報(console.ini)	PCBSCON	—	○(*1)
その他	ハードウェア保守エージェントの内部ログ	MIALOG	—	○
	障害情報採取処理のトレースログ	EXECLOG	○	○

*1：仮想環境の場合は障害情報を採取できません。

【Linux 環境でのログ情報一覧】

概要	内容	ログ名	-t オプション	
			config	failure
OS 情報	OS 基本情報	OSINFO	○	○
	ドライバリスト	DRIVER	○	○
	OS 詳細情報	OSDINFO	○	○
OS メッセージ 情報	カーネルメッセージ情報	KNLMSG	—	○
	SYSLOG 情報	SYSLOG	—	○
RAID 関連 情報	MegaRAID コントローラの設定・ログ情報	MRCTL	○(*1)	○(*1)
	MegaRAID Storage Manager(MSM) イベントログ	MRMSM	○(*1)	○(*1)
	MegaRAID コントローラ配下の HDD Inquiry & LogSense 情報	MRHDD	—	○(*1)
サーバ本体 情報	サーバ本体のハードウェア情報 (モデル等)	HWINFO	○(*1)	○(*1)
	ハードウェア保守エージェントが生成した RC 情報	RCLOG	○	○
	最新の SEL 情報	SELNEW	○	○
FC 関連情報	[日立製 FC] アダプタ情報	HFCCTL	○(*1)	○(*1)
UPS 関連情報	PCBE(PowerChute Business Edition) Agent イベントログ情報 (EventLog)	PCBEAEV	—	○(*1)
	PCBE Agent データログ情報 (DataLog)	PCBEADT	—	○(*1)
	PCBE Agent 設定情報 (m11.cfg)	PCBEAMCF	—	○(*1)
	PCBE Agent 設定情報 (m11.bak)	PCBEAMBK	—	○(*1)
	PCBE Agent その他ログ情報 (debug.txt)	PCBEADBG	—	○(*1)
	PCBE Agent その他ログ情報 (pcbeproxy.txt)	PCBEAPRX	—	○(*1)
その他	ハードウェア保守エージェントの内部ログ	MIALOG	—	○
	障害情報採取処理のトレースログ	EXECLOG	○	○

*1: 仮想環境の場合は障害情報を採取できません。

リモート保守オプション設定ツールのエラー一覧

リモート保守オプション設定ツールのエラーメッセージ一覧について説明します。

メッセージ内容	原因	対処
Administrator 権限があるユーザで実行してください。	何らかの処理が拒否された。	アドミニストレータ権限を持つユーザで操作してください。
システムセキュリティ情報の読み込みに失敗しました。	システムセキュリティ情報の読み込みに失敗した。	システム装置をリポートしてください。
既に起動しています。	リモート保守オプション設定ツールが既に起動している。	既に起動しているプログラムを使用してください。
メモリの確保に失敗しました。	処理に必要なメモリが確保できなかった。	いくつかのアプリケーションを終了した後再実行してください。
リソース不足により処理を続行できません。	処理に必要なリソースが確保できなかった。	いくつかのアプリケーションを終了した後再実行してください。
ファイルの操作に失敗しました。	何らかのファイルにアクセスできなかった。	Log Monitor を再インストールしてください。
ネットワークの初期化に失敗しました。	ネットワークが利用できない。	ネットワークが使用可能か確認してください。
ネットワーク制御エラーが発生しました。	ネットワーク制御において何らかのエラーが発生した。	このエラーはほかのエラーと一緒に表示されるため、ほかのエラーの対処に従ってください。
ファイルの読み込みに失敗しました。ファイルが無効であるかサポートされてない形式です。	ファイルが読み込めない。	①正しいファイルを指定して再実行してください。 ②ファイルパスが長過ぎないか確認してください。 ③ファイルが壊れていないか確認してください。
内部処理エラーが発生しました。	プログラム上の不具合が発生した。	①再操作してください。 ②システム装置をリポートしてください。
ハードウェア保守エージェントから応答がありません。	ハードウェア保守エージェントのサービスプログラムとの通信ができない。	①しばらく時間を置いてから再操作してください。 ②装置をリポートしてください。 ③Log Monitor を再インストールしてください。
ハードウェア保守エージェントのエラーを検知しました。	何らかの不具合が発生した。	エラー詳細 (※1) の対処方法に従ってください。□
装置コードまたはチェックコードが不正です。	不正な装置コードまたはチェックコードを入力した。	①正しい装置コードとチェックコードを入力して再実行してください。 ②ユーザ/装置登録を再登録してください。
未サポートの処理要求を受け付けました。	プログラム上の不具合が発生した。	Log Monitor を再インストールしてください。
エージェントサービスからテストアラートが発行されませんでした。	接続テストにおいてテストアラートを検知できなかった。	イベントログ(Application)を消去し、再度接続テストを実行してください。
お客様 ID またはパスワードが違います。正しいお客様 ID・パスワードを入力後再度実行してください。	不正なお客様 ID またはパスワードを入力した。	正しいお客様 ID とパスワードを入力してください。
処理コードが不正です。	不正な処理コードを入力した。	正しい処理コードを入力してください。

メッセージ内容	原因	対処
解除コードが違います。正しい解除コードを入力してください。	不正な解除コードを入力した。	正しい設定解除コードを入力してください。
ハードウェア保守エージェントと接続できませんでした。	接続先アドレス(IPアドレス)で指定した装置にハードウェア保守エージェントがインストールされていない。	①接続先アドレスを確認してください。 ②接続先サーバにLog Monitorがインストールされていることを確認してください ③接続先サーバのLog Monitorのサービスプログラム(サービス名: SMAL2_MainteAgtSvc)が動作していることを確認してください

※1 : 「ハードウェア保守エージェントのエラーを検知しました」の場合は、下記メッセージが追加表示されます。

メッセージ内容	原因	対処
Failed in connection to the email server.	・SMTPサーバの設定間違い ・ネットワーク環境の不備	①SMTPサーバの設定を見直してください。 ②ネットワーク環境を見直してください。
There is not a reply from the email server.	SMTPサーバとの通信において不具合が発生した。	①SMTPサーバへの接続環境を確認してください。 ②時間をおいて再操作してください。
Failed in the transmission of a message to the email server.	SMTPサーバとの通信において不具合が発生した。	SMTPサーバでエラーが発生していないか確認してください。
An error occurred with an email server. (530)	何らかの理由でSMTPサーバへのアクセスを拒否された。	①SMTPサーバのエラー内容を確認してください。 ②指定した送信元メールアドレスが正しいか確認してください。
An error occurred with an email server. (550)	メールボックスが見つからない、アクセスできない、ポリシー上の理由でアクセス拒否されたなどの理由でメール送信に失敗。	①SMTPサーバのエラー内容を確認してください。 ②指定した送信元メールアドレスが正しいか確認してください。
An error occurred with an email server. (552)	SMTPサーバのディスク不足のためメールを送信に失敗。	SMTPサーバのエラー内容を確認してください。
An error occurred with an email server. (553)	送信者のメールボックスが存在しないなどでメール送信に失敗。	①SMTPサーバのエラー内容を確認してください。 ②時間をおいて再操作してください。
An error occurred with an email server. (554)	SMTPサーバにてエラーが発生しメール送信失敗。	①SMTPサーバのエラー内容を確認してください。 ②時間をおいて再操作してください。
An error occurred with an email server. (xxx)	SMTPサーバにて何らかの不具合を検出した。 (xxx): SMTPサーバで生成されたエラー番号	SMTPサーバのエラー内容を確認してください。 (「リモート保守サービスの前提環境」に記載されているメール送信設定でメールの送信ができる必要があります)
An unknown error occurred during communication with the SMTP server.	SMTPサーバとの通信において不具合が発生した。	SMTPサーバへの接続環境を確認してください。



頭字語と略語

BMC	Baseboard management controller
FC	Fiber Channel
GB	gigabyte
GUI	Graphical User Interface
Hz	Hertz
IPMI	Intelligent Platform Management Interface
KB	Kilobyte
LAN	local area network
OS	operating system
RAID	Redundant Arrays of Inexpensive Disks
SAS	Serial Attached SCSI
SEL	System Event Log
URL	Uniform Resource Locator
VGA	video graphics array
VM	virtual machine

◎株式会社 日立製作所
ITプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>